

自己改革集中期間の実績

平成27年4月1日～平成31年3月31日

ハウスリース事業で
トマト産地拡大



収穫量 53,775 kg
反収平均 700 万円

がんばる新農業人支援事業



研修生受入れ 14 名
就農者 11 名

夢咲あぐりパート
(農作業無料職業案内所)



求人希望数 237 名
求職希望数 101 名
紹介成立数 59 名

地域に根ざした
各種栽培講習会



受講人数 延べ
7,485 名

農業振興のための
営農支援事業



支援金額
1,011 万円

パッケージセンターによる
イチゴの荷造り支援と付加価値販売



荷造り実績 407 万パック
販売金額 16 億円

輸出品拡大
(イチゴ・トマト・茶など)



輸出金額
1 億 2,373 万円

優良農地確保のための
面的農地集積事業



中間管理事業
2,787,365 m²
農地円滑化事業
1,997,900 m²

農業を通じた食育活動



活動回数
430 回

J A 遠州夢咲 自己改革の成果と今後の取り組み

J A 遠州夢咲は、自主・自立の協同組合として、自ら改革に取り組んでいます。一方、政府は農業の成長産業化・競争力の強化を掲げ農協改革を進めていますが、その施策は必ずしも生産現場の声を反映しているとは言い切れません。

改革の取り組みは、組合員の皆様に評価いただいて初めて成果となります。この資料では、これまでの当 J A の取り組み状況について報告します。今後も、自己改革を進めるとともに、お伝えするよう努めてまいります。

自己改革の取り組み内容と成果

農家組合員の農業所得向上

産地力強化にむけて低コスト耐候性ハウス稼働

取り組み内容

平成28年3月「攻めの農業」の具体策として、掛川市と御前崎市に低コスト耐候性ハウス（16,794㎡）を建設し、ハウスリース事業を本格稼働しました。

国の「強い農業づくり交付金事業」を活用し、高付加価値や生産コストの低減など産地の収益力強化や合理化を図りました。また第46回日本農業賞では、夢咲トマト委員会の生産に対する姿勢が評価され、集団組織の部で優秀賞に輝きました。



最新鋭の機器で管理されたハウス



受賞を喜ぶ関係者の皆さん

組合員の声

- ・省力化につながりトマト生産に力を注ぐことができた。
- ・未来型の統合環境制御ハウスが完成したことで、作業の軽減化やチーム化など効率的に生産に取り組むことができた。
- ・優秀賞受賞により全国に夢咲トマトの評価を高めた。

成果

厳しい栽培環境ではあったが、昨年度実績よりも反収は上回っており、目標の21t / 10aに向かってスタートがきれた。

機構変更と農業融資渉外の新設

取り組み内容

農業振興部に販売企画課を新設し、市場に積極的に売り込みを図りました。金融推進課は専従の農業融資渉外職員を新たに配置。営農や金融部門と連携し、担い手の資金ニーズを的確に捉えることで、他金融機関との差別化を図りました。またJAならではの金融商品として「831（やさい）定期」や「ミナクル定期」を販売しました。



組合員へ積極的に訪問しています



好評の831（やさい）定期

組合員の声

- ・JAの強みである営農指導・資材販売・融資が一元化され、対応が早い。
- ・県やJAなどの補助事業の情報をつないでくれた。

成果

年間で支店の担い手金融担当者による担い手訪問活動1,451件、農業融資渉外の担い手訪問活動692件で合計2,143件の担い手訪問活動がされた。

地域社会サービス提供

学校と連携した商品開発

取り組み内容

平成27年度より小学校や高校と連携し、夢咲産農産物を使った商品化に取り組んでいます。小笠高校では「いちじく」や「トマト」を使ったスイーツ、お茶を利用したクッキー、また小笠南小学校では栽培した米を玄米茶の素に加工し作った「まんてん茶」など、次世代に向けて農業への理解促進を図りました。



小笠高生が考案したスイーツや総菜

組合員の声

- ・テレビや新聞で報道され、夢咲農産物のPRにつながった。
- ・若者が農業を意識するきっかけになった。



小笠南小児童が考案した「まんてん茶」

成果

静岡新聞や中日新聞のほかNHKなどのマスコミ各社に取り上げられ、新たな取り組みとして地域とともに歩むJAを地域に発信できた。

次世代向け J A や農業理解促進

取り組み内容

平成27年度より「食と農」を通じ、地域づくりや次代とのつながりを深める活動の一環として、「J A 夢咲親子あぐりスクール」を開催しています。青年部や女性部の協力の下、各部門と連携し活動を進めてきました。親子で野菜づくりを通じて土の感触や収穫の喜びを体験しました。

また平成28年度からは、小学生を対象に「夢咲こども記者クラブ」を開催しました。第1回は内田小6年の児童9人が参加し、組合長や専務を取材、また本店や施設見学、農家取材を通じて J A 全般について学びました。取材した内容は、広報誌「夢咲」や「ミナクルランド」で紹介しました。

組合員の声

- ・親子で一緒になって農作業をする姿勢は絆を深めるきっかけになり、よい取り組みだ。
- ・子どもたちの視点で J A を紹介する内容が素晴らしい。

成 果

青年部・女性部員の協力や部門間連携によって、J A 職員や部員の組織に対する意識向上につながった。また子どもたちにとって農業や J A に対する関心を高めることができた。

仲間づくりのきっかけに 女性大学30人参加

取り組み内容

新たな仲間づくりや J A 理解促進のため女性大学「すまいるセミナー」を開講しています。女性に関心の高い「健康」や「食」をテーマにカリキュラムを企画した結果、平成28年度は30人が参加しました。

参加者の声

- ・講座で知り合いが増え、プライベートも充実した。
- ・仲間という意識が芽生えた。

成 果

セミナー参加者のうち5人が女性部に新たに加入した。



J A 夢咲親子あぐりスクールに参加した皆さん



圃場に出向き取材することも記者たち



コケ玉づくりを学ぶ受講生の皆さん



良質なお茶の見方について学びました

自己改革の今後の取り組みと成果目標

夢咲農産物の需要拡大と担い手育成

夢咲農産物の海外輸出と国内販路の拡大

組合員からの期待

- ・市場流通を基本とするが、海外など農産物の新たな販路があったらいい。
- ・持続可能な農業経営に向け、担い手を育成して欲しい。

今後の取り組み

J A 静岡経済連と連携し、市場流通の強化と引き続き海外輸出に取り組めます。
茶では、輸出に対応できる防除体制の確立を図ります。
高級茶や粉末茶などの新商品開発を通して、新たな需要層の掘り起しをします。

総合農協としての役割を発揮

多様化するニーズを反映するために

組合員からの期待

- ・誰もが気軽に立ち寄れ、相談できる J A であって欲しい。
- ・地域から信頼される組織であって欲しい。

今後の取り組み

農業振興や金融・共済・生活など各部門が連携した事業を展開します。
支店が地域の拠り所となるよう 1 支店 1 協同活動を進めます。

健全経営とJA組織の魅力を発信

トップ広報の実践と意見集約

組合員からの期待

- ・ J A 組織を次代につないでいくための地域理解に努めて欲しい。
- ・組合員・利用者の立場にたった事業運営をして欲しい。

今後の取り組み

正組合員や准組合員の加入推進を行ない J A に集う仲間を増やします。
役員自らの言葉で情報を発信し、農家組合員を訪問し意見を集約します。

おいしいをつくりましょ。

